

平成 29 年度第 3 四半期（平成 29 年 10～12 月期） 長岡市景況調査報告書（概要版）

平成 30 年 1 月

長 岡 市
長岡商工会議所
(調査機関) 株ホクギン経済研究所

I. 調査の概要

1. 調査の目的

長岡市と長岡商工会議所が共同で、四半期ごとの長岡市内事業所の景気動向を調査することにより、現在の景況を把握し今後の施策に反映させるための基礎資料とする。

2. 調査の方法

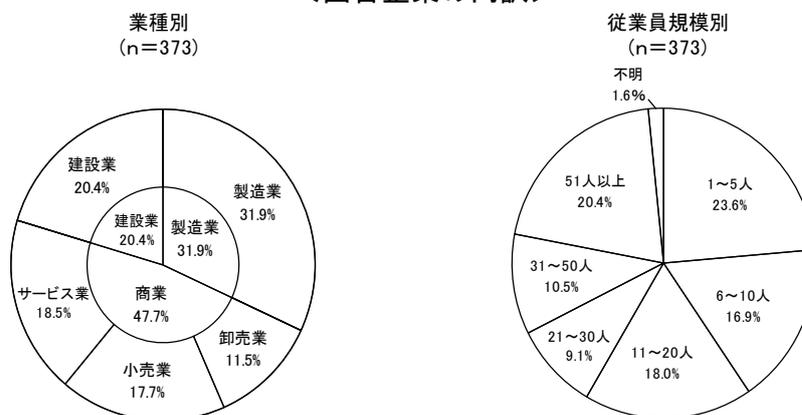
- | | |
|-----------|--|
| (1) 期 間 | 平成 29 年 12 月 20 日(水)～平成 30 年 1 月 26 日(金) |
| (2) 方 法 | 郵送による記名アンケート方式 |
| (3) 対象先数 | 1,471 事業所 |
| (4) 回答先数 | 有効回答 373 事業所 |
| (5) 有効回収率 | 25.4% (373/1,471) |

3. 回収状況

回収状況は下記の通り。

	調査対象企業数 ()は構成比率(%)	回答企業数 ()は構成比率(%)	回収率(%)
製 造 業	501 (34.1)	119 (31.9)	23.8
卸 売 業	224 (15.2)	43 (11.5)	19.2
小 売 業	255 (17.3)	66 (17.7)	25.9
サービス業	246 (16.7)	69 (18.5)	28.0
建 設 業	245 (16.7)	76 (20.4)	31.0
合 計	1,471	373	25.4

<回答企業の内訳>



Ⅱ. 調査結果の概要

1. 景気動向に関する調査

(1) 業況判断の動向

- ・平成29年10～12月期の業況判断DI（前年同期比「好転」の事業所割合－「悪化」の事業所割合）は△8.6。前期比1.9ポイントの改善となった。
- ・平成30年1～3月期は△12.1と、平成29年10～12月期と比較し3.5ポイントの悪化となる見通し。
- ・業種別に業況判断DIをみると、製造業は、平成29年10～12月期が15.1(前期比+13.3ポイント)と大幅に改善した。平成30年1～3月期は3.5(今期比△11.6ポイント)と悪化する見通し。
- ・商業（卸売業、小売業、サービス業の合計）は、平成29年10～12月期が△21.7（前期比△6.6ポイント）と悪化した。平成30年1～3月期は△16.1（今期比+5.6ポイント）と改善の見通し。
- ・建設業は、平成29年10～12月期が△16.0（前期比+4.0ポイント）と改善。平成30年1～3月期は△26.3（今期比△10.3ポイント）と悪化する見通し。

【現況】(平成29年10～12月期)

業種	好転 (%)	不変 (%)	悪化 (%)	好転－悪化 (DI)	前回調査DI (平成29年 7～9月期)
製造業	37.8 (+10.3)	39.5 (△7.3)	22.7 (△3.0)	15.1 (+13.3)	1.8
商業	15.4 (△6.5)	47.4 (+6.3)	37.1 (+0.1)	△21.7 (△6.6)	△15.1
建設業	16.0 (+3.1)	52.0 (△2.3)	32.0 (△0.9)	△16.0 (+4.0)	△20.0
全体	22.8 (+1.0)	45.8 (±0.0)	31.4 (△0.9)	△8.6 (+1.9)	△10.5

※()内の数字は前回調査「平成29年7～9月期の現況」からの増減

【見通し】(平成30年1～3月期)

業種	好転 (%)	不変 (%)	悪化 (%)	好転－悪化 (DI)
製造業	27.0 (△10.8)	49.6 (+10.1)	23.5 (+0.8)	3.5 (△11.6)
商業	10.9 (△4.5)	62.1 (+14.7)	27.0 (△10.1)	△16.1 (+5.6)
建設業	7.9 (△8.1)	57.9 (+5.9)	34.2 (+2.2)	△26.3 (△10.3)
全体	15.3 (△7.5)	57.3 (+11.5)	27.4 (△4.0)	△12.1 (△3.5)

※()内の数字は今回調査「平成29年10～12月期の現況」からの増減

<業況好転・悪化の理由>

- ・業況好転・悪化の理由をみると、業況好転の理由は、5業種とも「需要動向の好転」（建設業では「民間需要の好転」）の割合が最も高かった。
- ・業況悪化の理由は、5業種とも「需要動向の悪化」（建設業は「民間需要の悪化」）の割合が最も高かった。

業況好転の理由（上位5位まで、複数回答、下段:%）

業種	順位	1位	2位	3位	4位	5位
製造業 (n=44)	需要動向の好転	販路の拡大	新製品の開発・取扱い	売上単価の上昇	円安の好影響	
	81.8	27.3	9.1	4.5	4.5	
卸売業 (n=12)	需要動向の好転	売上単価の上昇	販路の拡大	新製品の開発・取扱い		
	66.7	25.0	16.7	8.3		
小売業 (n=7)	需要動向の好転	販路の拡大	売上単価の上昇			
	42.9	42.9	42.9			
サービス業 (n=7)	需要動向の好転	販路の拡大	売上単価の上昇	経費削減の進展	新分野への展開	
	42.9	28.6	14.3	14.3	14.3	
建設業 (n=11)	民間需要の好転	官公需要の好転	資金繰りの好転			
	63.6	36.4	18.2			

※複数回答のため、割合の合計は100%にならない。

業況悪化の理由（上位5位まで、複数回答、下段:%）

業種	順位	1位	2位	3位	4位	5位
製造業 (n=27)	需要動向の悪化	販路の縮小	原材料・仕入価格の上昇	経費負担の増加	資金繰りの悪化	
	81.5	33.3	22.2	18.5	7.4	
卸売業 (n=14)	需要動向の悪化	経費負担の増加	販路の縮小	売上単価の下落	原材料・仕入価格の上昇	
	85.7	28.6	21.4	21.4	14.3	
小売業 (n=27)	需要動向の悪化	販路の縮小	売上単価の下落	経費負担の増加	原材料・仕入価格の上昇	
	59.3	25.9	22.2	18.5	14.8	
サービス業 (n=23)	需要動向の悪化	原材料・仕入価格の上昇	経費負担の増加	売上単価の下落	販路の縮小	
	73.9	47.8	26.1	17.4	8.7	
建設業 (n=24)	民間需要の悪化	官公需要の悪化	経費負担の増加	原材料・仕入価格の上昇	売上単価の下落	
	62.5	50.0	20.8	16.7	12.5	

※複数回答のため、割合の合計は100%にならない。

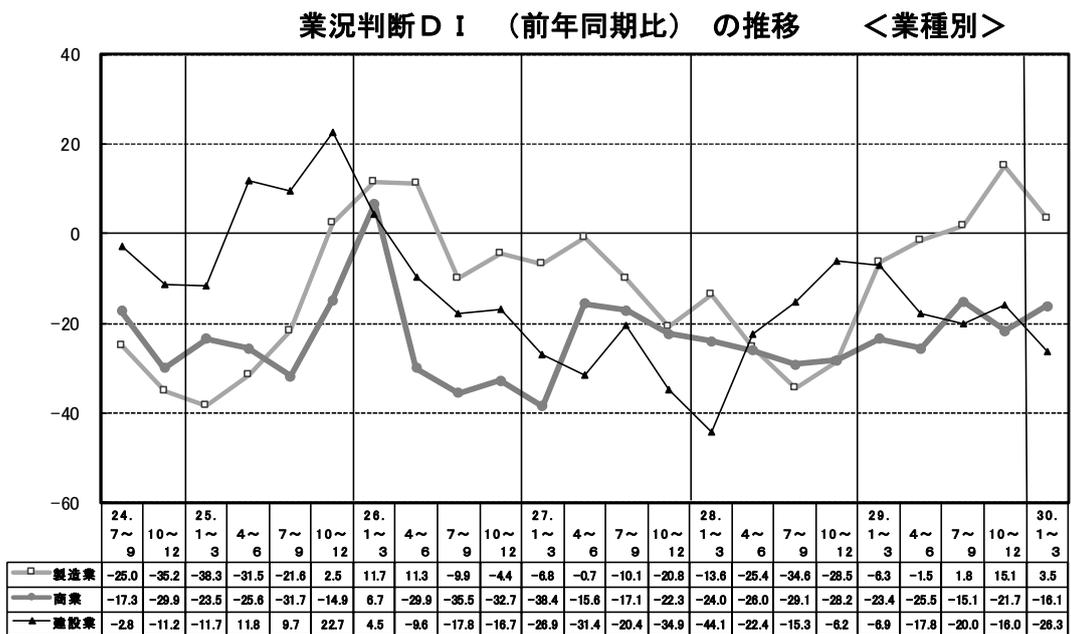
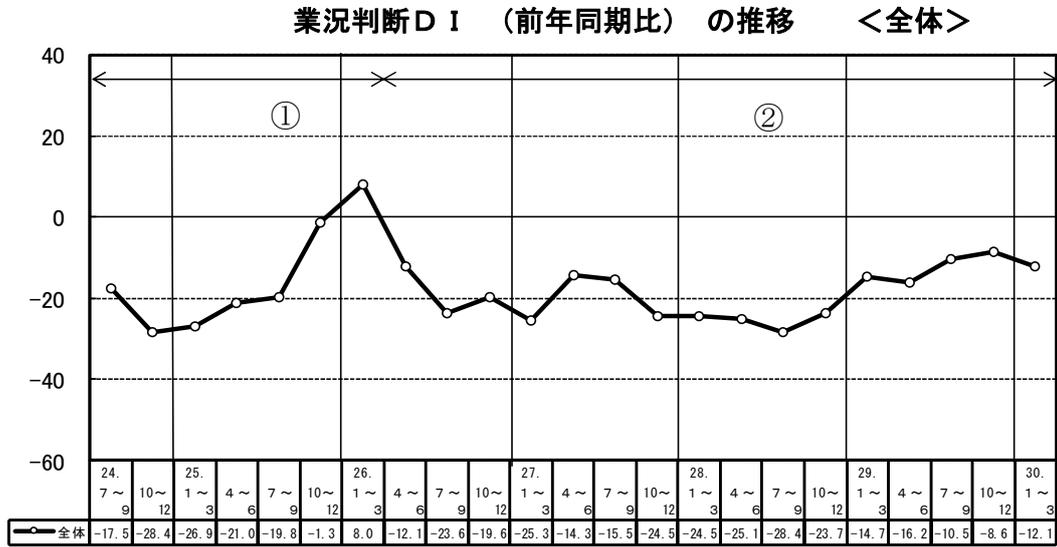
<長期的（平成24年7～9月期以降）にみた趨勢>

- ・平成24年7～9月期から平成26年1～3月期（グラフ期間①）

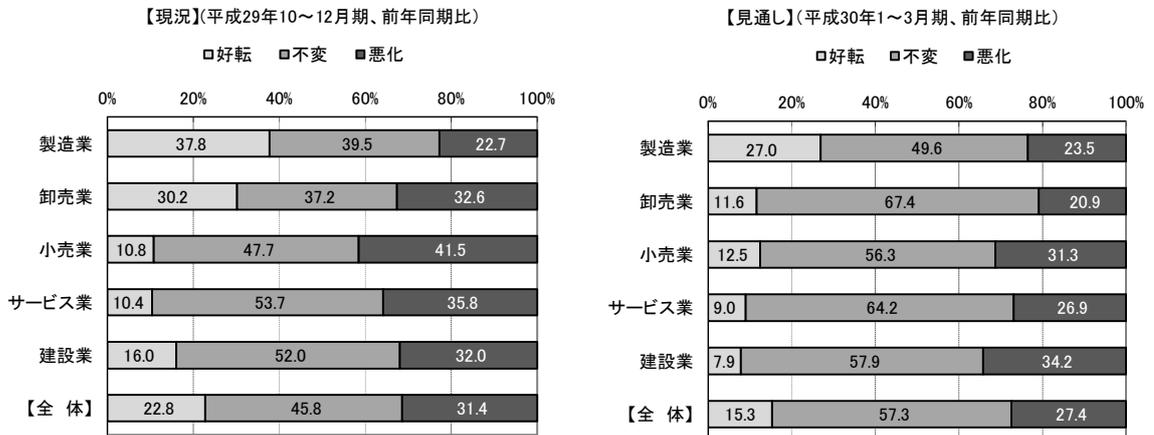
D I は、平成24年10～12月期に落ち込んだが、その後は緩やかに改善し、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要を背景に、平成26年1～3月期にはプラス圏内まで回復した。業種別では、製造業、商業が改善基調を示した。

- ・平成26年4～6月期から平成30年1～3月期（グラフ期間②）

消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減により、D I は平成26年4～6月期から2期連続で悪化。その後は回復感に乏しい動きが続いた。平成27年4～6月期には前期比11.0ポイント改善したが、その後は足踏み状態が続き、平成28年10～12月期以降は回復基調に転じている。業種別では、製造業、商業が概ね改善基調にある。



- ・ 5業種別に業況判断の動向をみると、平成29年10～12月期は、「悪化」の回答割合が最も高いのは小売業で41.5%となっている。
- ・ 平成30年1～3月期は、「悪化」の回答割合が建設業で34.2%と最も高くなっている。



・ 業種ごとの詳細は次の通り。(コメントの内容は前年同期比)

製造業	現況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 印刷・製本、菓子、一般機械、金属製品は改善。 ・ 家具・建具、電気機械、鋳鍛造品、精密機械、繊維・織物は悪化。
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家具・建具、精密機械は改善の見通し。 ・ 繊維・織物、一般機械は横這いの見通し。 ・ 印刷・製本、金属製品、電気機械、菓子、鋳鍛造品は悪化の見通し。
卸売業	現況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繊維品・衣服、食料・飲料は悪化。
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繊維品・衣服は改善の見通し。 ・ 食料・飲料は悪化の見通し。
小売業	現況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 酒、食料品は改善。 ・ 自動車、文具・書籍は悪化。
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動車、文具・書籍、食料品は改善の見通し。 ・ 酒は悪化の見通し。
サービス業	現況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運輸、旅館・ホテルは改善。 ・ 飲食店は悪化。
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食店は改善の見通し。 ・ 運輸、旅館・ホテルは悪化の見通し。
建設業	現況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合建設、管工事は改善。 ・ 電気工事、建築、土木は悪化。
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土木は横這いの見通し。 ・ 電気工事、管工事、総合建設、建築は悪化の見通し。

※コメントは、回答企業数が概ね5先以上の業種を対象としている。

(2) 売上の動向

●売上高の動向

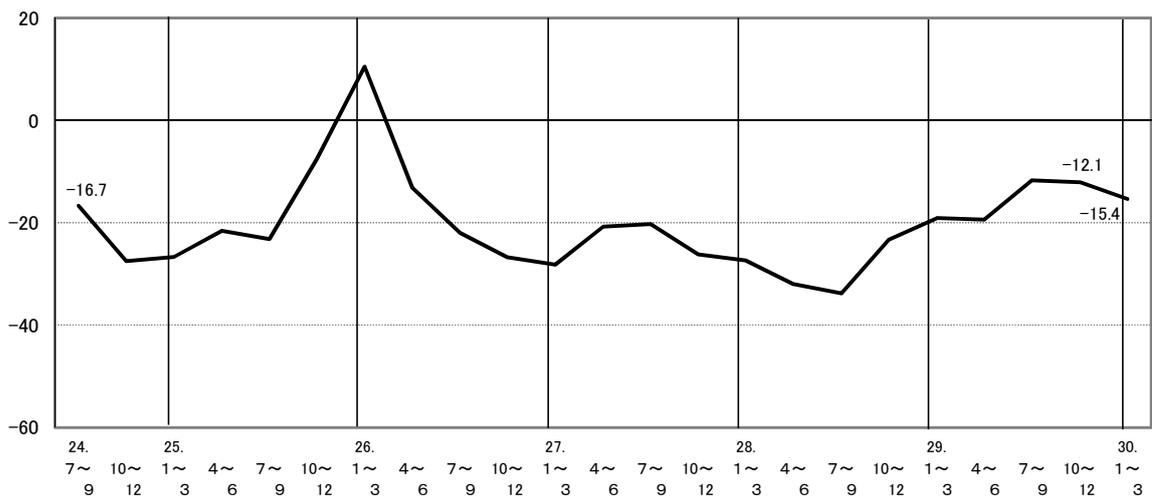
・平成29年10～12月期の売上高DI（前年同期比「増加」の割合－「減少」の割合）は全体で△12.1。平成29年7～9月期（△11.7）と比較して0.4ポイントの悪化となった。業種別では、製造業が改善、小売業、建設業がほぼ横這い、卸売業、サービス業で悪化した。

・平成30年1～3月期の売上高DIは、全体では△15.4と、平成29年10～12月期比3.3ポイントの悪化となる見通し。業種別では、卸売業、小売業、サービス業が改善、製造業、建設業で悪化する見通し。

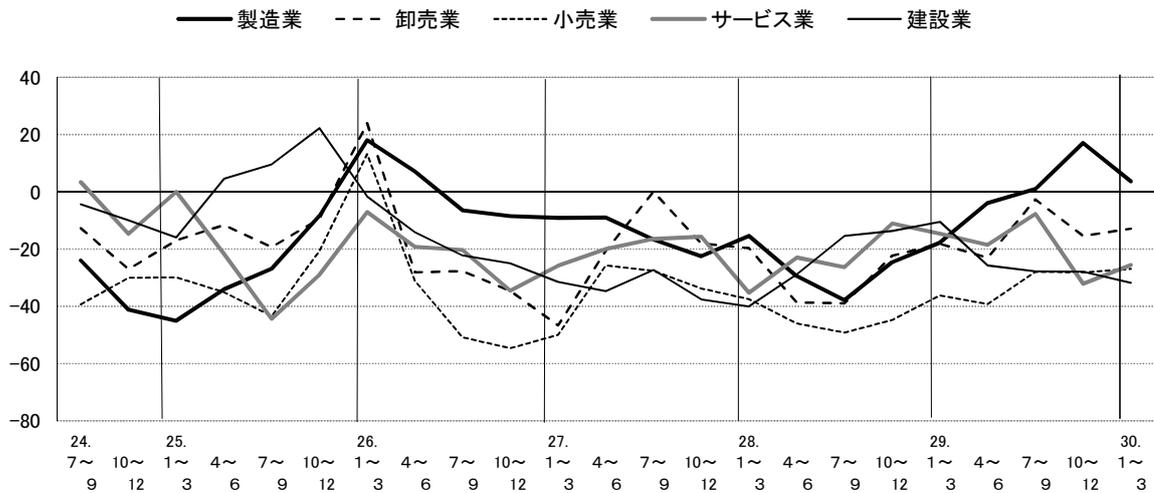
売上高の動向(前年同期比)

業種	前回調査DI (平成29年 7～9月期)	現況（平成29年10～12月期）				見通し（平成30年1～3月期）			
		増加 (%)	不変 (%)	減少 (%)	増加-減少 (DI)	増加 (%)	不変 (%)	減少 (%)	増加-減少 (DI)
製造業	1.0	45.0	27.0	27.9	17.1	29.6	44.4	25.9	3.7
卸売業	△2.7	28.2	28.2	43.6	△15.4	17.9	51.3	30.8	△12.9
小売業	△28.0	17.5	36.8	45.6	△28.1	15.4	42.3	42.3	△26.9
サービス業	△7.7	16.1	35.7	48.2	△32.1	10.9	52.7	36.4	△25.5
建設業	△27.8	16.2	39.7	44.1	△27.9	6.3	55.6	38.1	△31.8
全体	△11.7	27.5	32.9	39.6	△12.1	18.0	48.6	33.4	△15.4

売上高DI(前年同期比)の推移【全体】



業種別売上高DI(前年同期比)の推移



・業種ごとの詳細は次の通り。(コメントの内容は前年同期比)

製造業	現況	<ul style="list-style-type: none"> ・一般機械、菓子、印刷・製本、金属製品は改善。 ・繊維・織物は横這い。 ・家具・建具、電気機械、鋳鍛造品、精密機械は悪化。
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> ・繊維・織物、家具・建具、鋳鍛造品、精密機械は横這いの見通し。 ・金属製品、印刷・製本、電気機械、菓子、一般機械は悪化の見通し。
卸売業	現況	<ul style="list-style-type: none"> ・食料・飲料は悪化。
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> ・食料・飲料は悪化の見通し。
小売業	現況	<ul style="list-style-type: none"> ・食料品、衣料品は改善。 ・自動車は悪化。
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車は改善の見通し。食料品は横這い。 ・衣料品は悪化の見通し。
サービス業	現況	<ul style="list-style-type: none"> ・旅館・ホテル、運輸は改善。 ・飲食店は悪化。
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食店は改善の見通し。運輸は横這い。 ・旅館・ホテルは悪化の見通し。
建設業	現況	<ul style="list-style-type: none"> ・管工事、総合建設は改善。土木は横這い。 ・建築、電気工事は悪化。
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> ・土木は改善の見通し。総合建設はほぼ横這い。 ・建築、電気工事、管工事は悪化の見通し。

※コメントは、回答企業数が概ね5先以上の業種を対象としている。

(3) 設備投資の動向

- ・平成29年10～12月期の設備投資は、全体では「実施しなかった」が73.4%（前回調査67.8%）を占め、依然として設備投資に慎重な先が多い。
- ・平成29年10～12月期で設備投資を実施した事業所の投資内容は、「生産設備」、「車両・運搬具」、「OA機器」などが多い。
- ・平成30年1～3月期は、設備投資を「計画していない」が全体で73.1%と、設備投資に慎重な姿勢が続く見通し。業種別では、「計画していない」との回答割合は、小売業（78.1%）で最も高い。
- ・平成30年1～3月期に設備投資を計画している事業所の投資内容は、「生産設備」、「車両・運搬具」などが多い。

【現況】平成29年10～12月期の設備投資

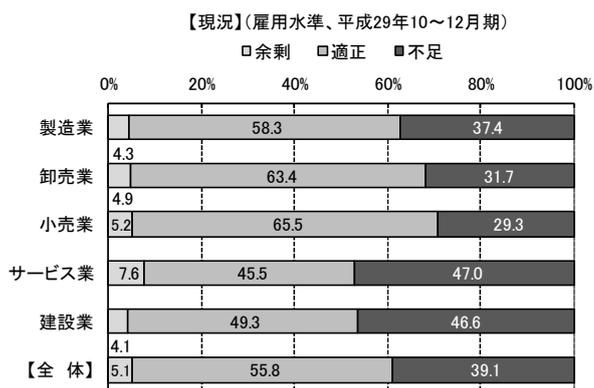
業種	実施した(%) 【()内は事業所数】	投資内容 (事業所数、複数回答)								実施しなかった(%)
		土地	工場建物	生産設備	車両・運搬具	付帯施設	OA機器	福利厚生施設	その他	
製造業	35.6 (42)	0.0	14.3	76.2	16.7	19.0	21.4	2.4	4.8	64.4
卸売業	9.3 (4)	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0	90.7
小売業	18.5 (12)	0.0	33.3	33.3	41.7	16.7	25.0	0.0	8.3	81.5
サービス業	31.3 (21)	4.8	14.3	28.6	33.3	23.8	14.3	4.8	14.3	68.7
建設業	25.3 (19)	0.0	10.5	5.3	73.7	0.0	31.6	0.0	10.5	74.7
全体	26.6 (98)	1.0	15.3	43.9	33.7	17.3	22.4	2.0	9.2	73.4

【計画】平成30年1～3月期の設備投資

業種	計画している(%) 【()内は事業所数】	投資内容 (事業所数、複数回答)								計画していない(%)
		土地	工場建物	生産設備	車両・運搬具	付帯施設	OA機器	福利厚生施設	その他	
製造業	29.9 (35)	2.9	14.7	70.6	8.8	20.6	17.6	5.9	2.9	70.1
卸売業	23.3 (10)	0.0	0.0	20.0	50.0	20.0	30.0	0.0	0.0	76.7
小売業	21.9 (14)	14.3	28.6	35.7	35.7	14.3	21.4	0.0	7.1	78.1
サービス業	30.3 (20)	5.0	30.0	20.0	30.0	25.0	20.0	0.0	10.0	69.7
建設業	25.7 (19)	0.0	15.8	21.1	52.6	0.0	15.8	0.0	10.5	74.3
全体	26.9 (98)	4.1	18.6	40.2	29.9	16.5	19.6	2.1	6.2	73.1

(4) 雇用の動向

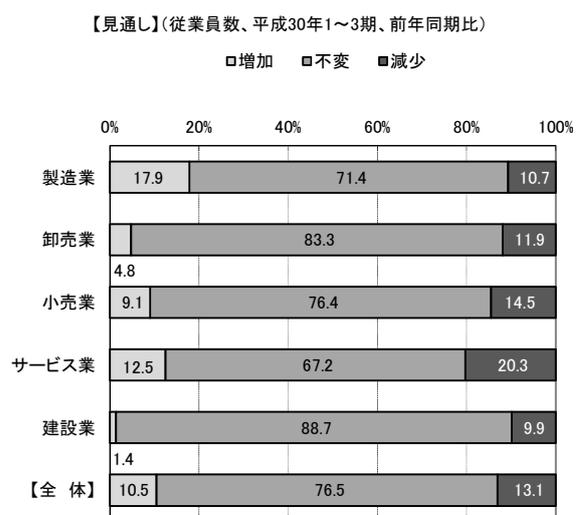
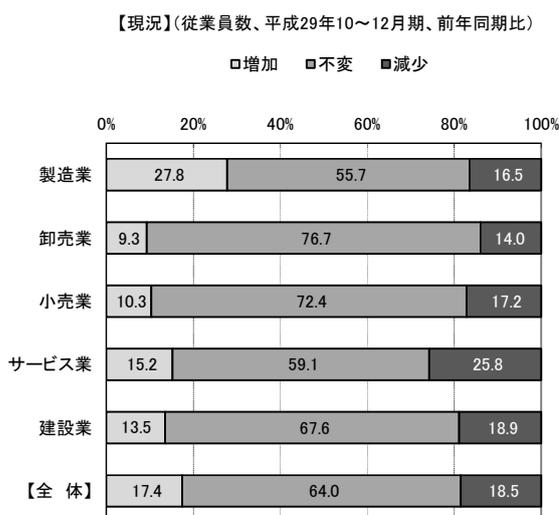
- 平成 29 年 10～12 月期の雇用水準は、全体では「余剰」5.1%（平成 29 年 7～9 月期 4.8%）、「適正」55.8%（同 57.0%）、「不足」39.1%（同 38.2%）。
- D I（「余剰」の割合－「不足」の割合）は△34.0 で、平成 29 年 7～9 月期（△33.4）と比較し雇用の不足感は拡大した。
- 業種別では、建設業（△42.5）で最も雇用の不足感が大きい。



雇用の動向

業種	前回調査DI (水準、平成29年7～9月期)	現況DI (水準、平成29年10～12月期)
製造業	△ 30.5	△ 33.1
卸売業	△ 13.1	△ 26.8
小売業	△ 27.6	△ 24.1
サービス業	△ 47.3	△ 39.4
建設業	△ 42.0	△ 42.5
全体	△ 33.4	△ 34.0

- 平成 29 年 10～12 月期の従業員数は、全体で「増加」17.4（平成 29 年 7～9 月期 15.9%）、「不変」64.0%（同 65.9%）、「減少」18.5%（同 18.2%）。
- 平成 30 年 1～3 月期の従業員数は、全体で前年同期比「増加」10.5%、「不変」76.5%、「減少」13.1%。



2. 障害者の雇用に関する調査

(1) 障害者の雇用状況

【全体】

- ・回答があった 353 事業所の中で、障害者を雇用している事業所割合は 21.2%。前回調査（平成 29 年 1 月実施）より 0.3 ポイント低下した。
- ・障害の種類別にみると、身体障害者を雇用している事業所割合は 16.4%で、前回調査（14.8%）より 1.6 ポイント上昇。
- ・知的障害者を雇用している事業所割合は 6.5%で、前回調査（6.7%）より 0.2 ポイント低下。
- ・精神障害者を雇用している事業所割合は 4.2%で、前回調査（4.5%）より 0.3 ポイント低下。
- ・雇用されている障害者数の合計は、回答事業所の従業員数合計の 0.69%であった。

●全体の障害者の雇用状況(平成30年1月実施)

		回答事業所数 (n=353)		従業員数 (n=29,013)	
		事業所数	割合	障害者の人数	割合
障害者を雇用している		75	21.2%	200	0.69%
障害の種類	身体障害	58	16.4%	122	0.42%
	知的障害	23	6.5%	54	0.19%
	精神障害	15	4.2%	24	0.08%

●前回調査(平成29年1月実施)

		回答事業所数 (n=358)		従業員数 (n=26,986)	
		事業所数	割合	障害者の人数	割合
障害者を雇用している		77	21.5%	266	0.99%
障害の種類	身体障害	53	14.8%	173	0.64%
	知的障害	24	6.7%	68	0.25%
	精神障害	16	4.5%	25	0.09%

【業種別】

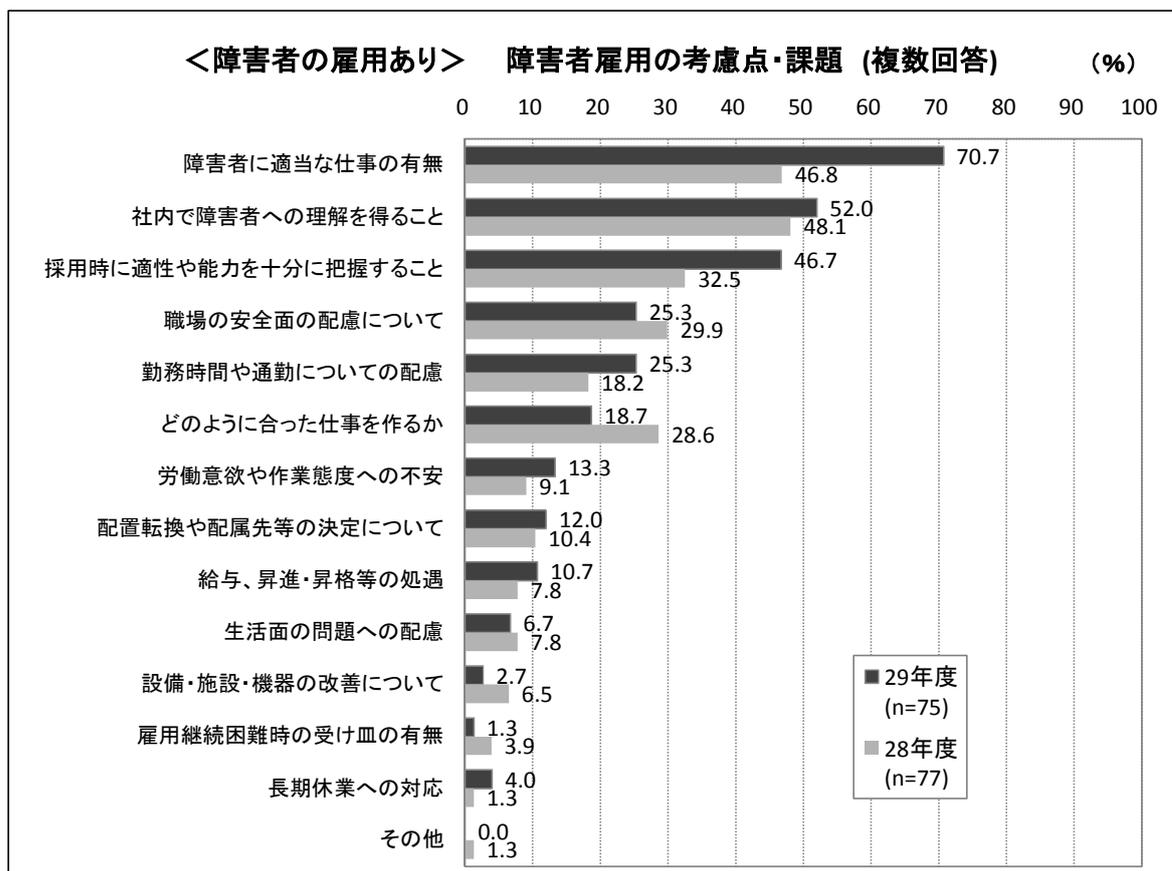
- ・障害者を雇用している 75 事業所を業種別にみると、製造業（38.7%）が最も多く、卸売業（2.7%）が最も少なかった。

●業種別にみた障害者の雇用状況

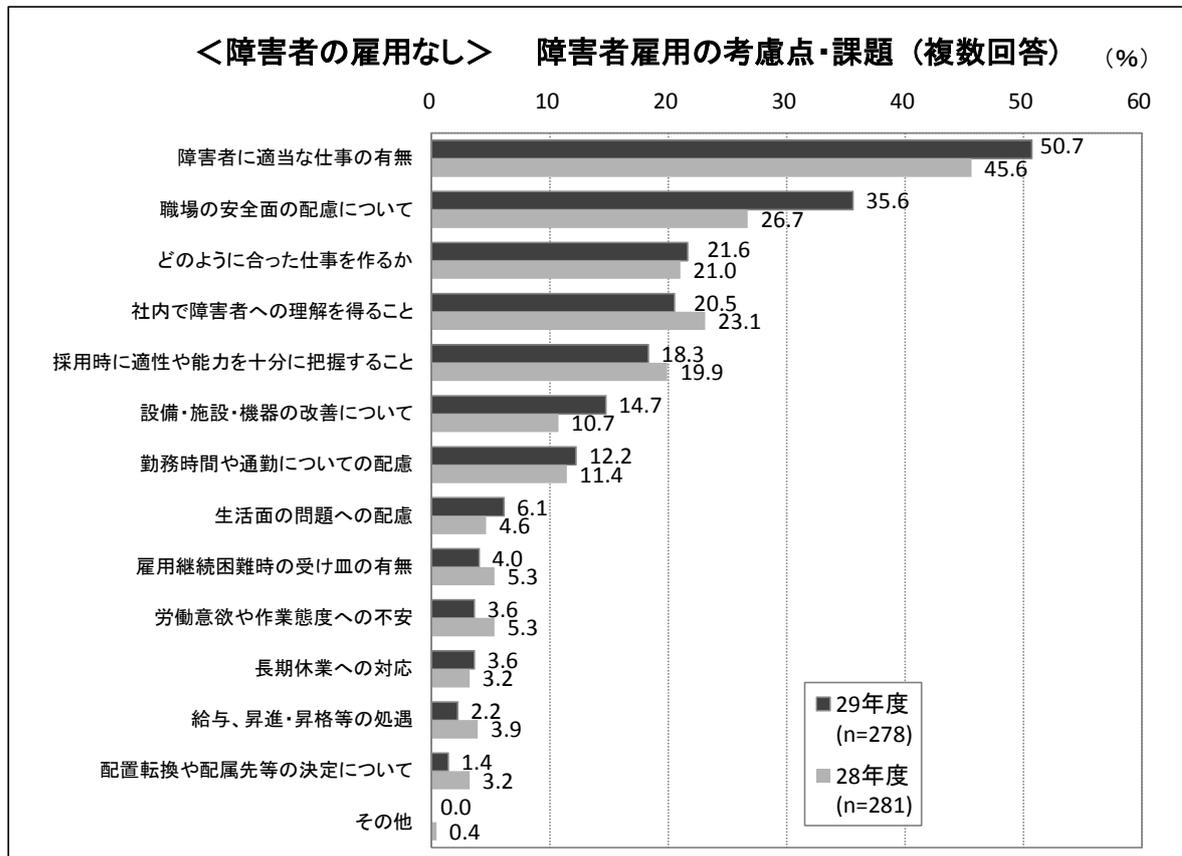
	製造業 (n=113)	卸売業 (n=43)	小売業 (n=59)	サービス業 (n=63)	建設業 (n=75)	合計 (n=353)
事業所数	29	2	11	17	16	75
業種割合	38.7%	2.7%	14.7%	22.7%	21.3%	100.0%

(2) 障害者雇用の考慮点・課題

- ・ 障害者を雇用している事業所に雇用にあたっての考慮点や課題を尋ねたところ、「障害者に適当な仕事の有無」(70.7%)の回答割合が最も高く、次いで「社内で障害者への理解を得ること」(52.0%)、「採用時に適性や能力を十分に把握すること」(46.7%)と続いた。

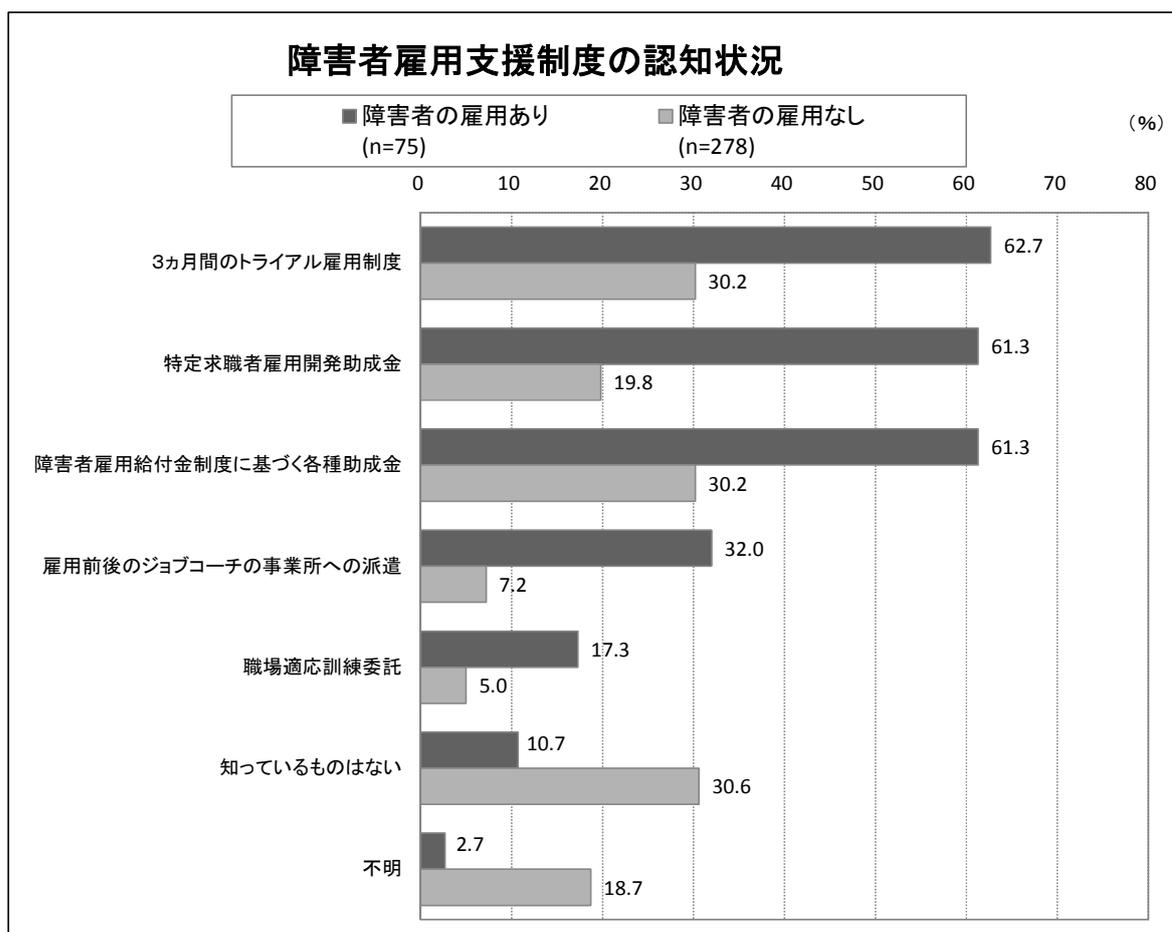


- ・ 障害者を雇用していない事業所に、今後雇用するとした場合の考慮点や課題を尋ねたところ、「障害者に適当な仕事の有無」(50.7%)の回答割合が最も高く、次いで「職場の安全面の配慮について」(35.6%)、「どのように合った仕事を作るか」(21.6%)と続いた。



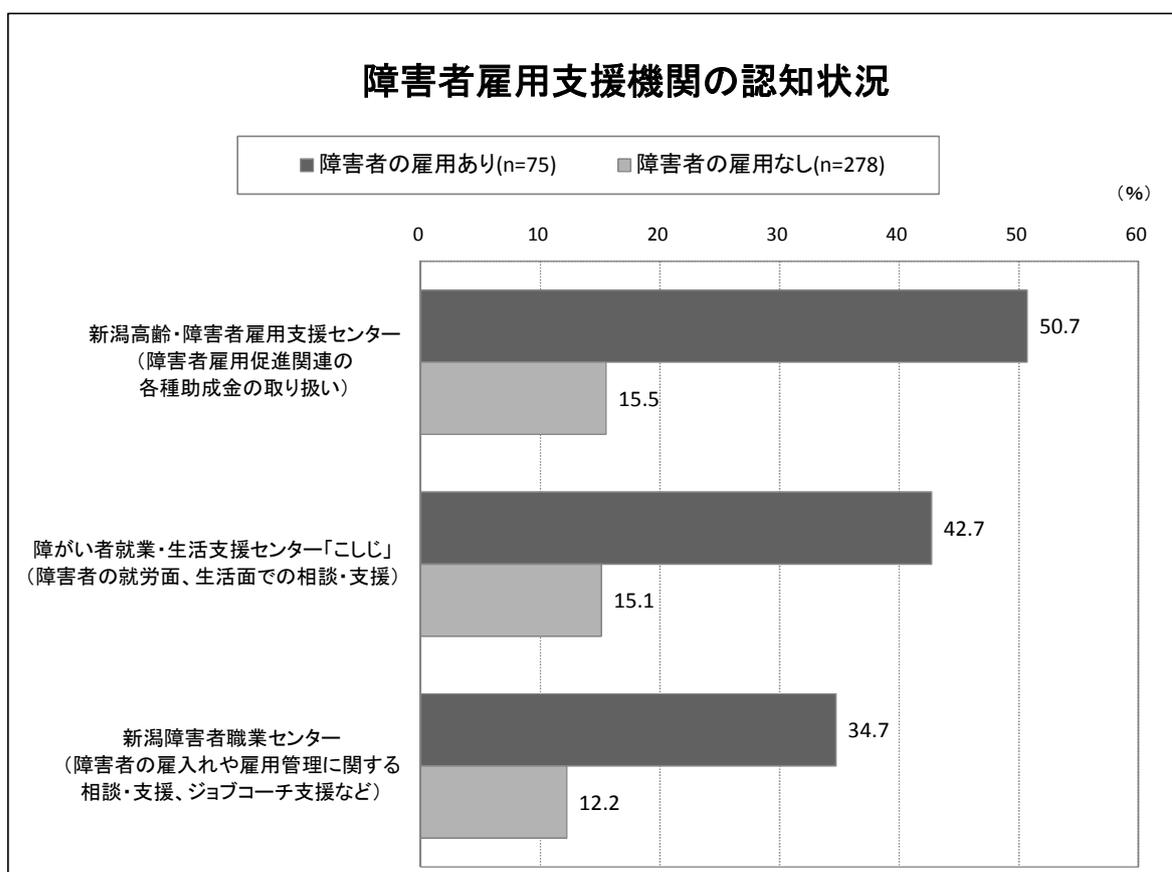
(3) 障害者雇用支援制度の認知状況

- ・ 障害者を雇用している事業所が認知している支援制度は、「3ヵ月間のトライアル雇用制度」(62.7%)の回答割合が最も高く、次いで「特定求職者雇用開発助成金」と「障害者雇用給付金制度に基づく各種助成金」がともに61.3%であった。
- ・ 障害者を雇用していない事業所が認知している支援制度は、「3ヵ月間のトライアル雇用制度」と「障害者雇用給付金制度に基づく各種助成金」の回答割合がともに30.2%で最も高く、次いで「特定求職者雇用開発助成金」(19.8%)と続いた。



(4) 障害者雇用支援機関の認知状況

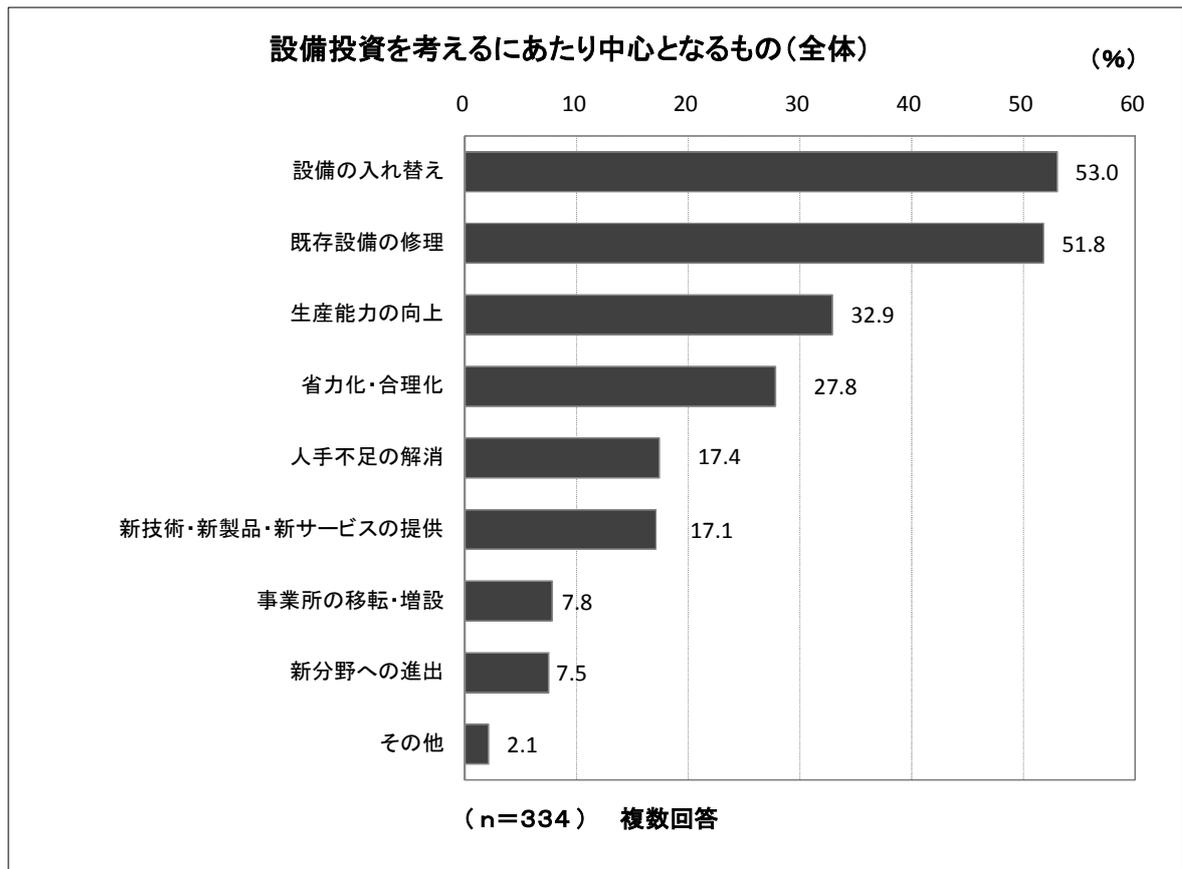
- ・ 障害者を雇用している事業所が認知していた支援機関は、「新潟高齢・障害者雇用支援センター」の回答割合が 50.7%と最も高く、次いで「障がい者就業・生活支援センター『こしじ』」(42.7%)、「新潟障害者職業センター」(34.7%)と続いた。
- ・ 障害者を雇用していない事業所が認知していた支援機関は、「新潟高齢・障害者雇用支援センター」の回答割合が 15.5%と最も高く、次いで「障がい者就業・生活支援センター『こしじ』」(15.1%)、「新潟障害者職業センター」(12.2%)と続いた。



4. 設備投資の目的に関する調査

(1) 設備投資を考えるにあたり中心となるもの

- ・設備投資を考えるにあたり中心となるものについて複数回答で尋ねたところ、全体では、「設備の入れ替え」の回答割合が53.0%と最も高く、次いで「既存設備の修理」(51.8%)で、この二つで5割超の回答があった。
- ・設備老朽化に伴う更新、修理ニーズの高さがうかがえる。



- ・業種別では、「設備の入れ替え」との回答は、サービス業（62.7%）と建設業で（56.9%）と最も高く、「既存設備の修理」との回答は、卸売業（65.0%）と小売業（48.1%）で高かった。また、製造業では「生産能力の向上」が55.9%で最も高かった。
- ・製造業では、生産の効率化など前向きな設備投資の需要が高まっているものと、推測される。

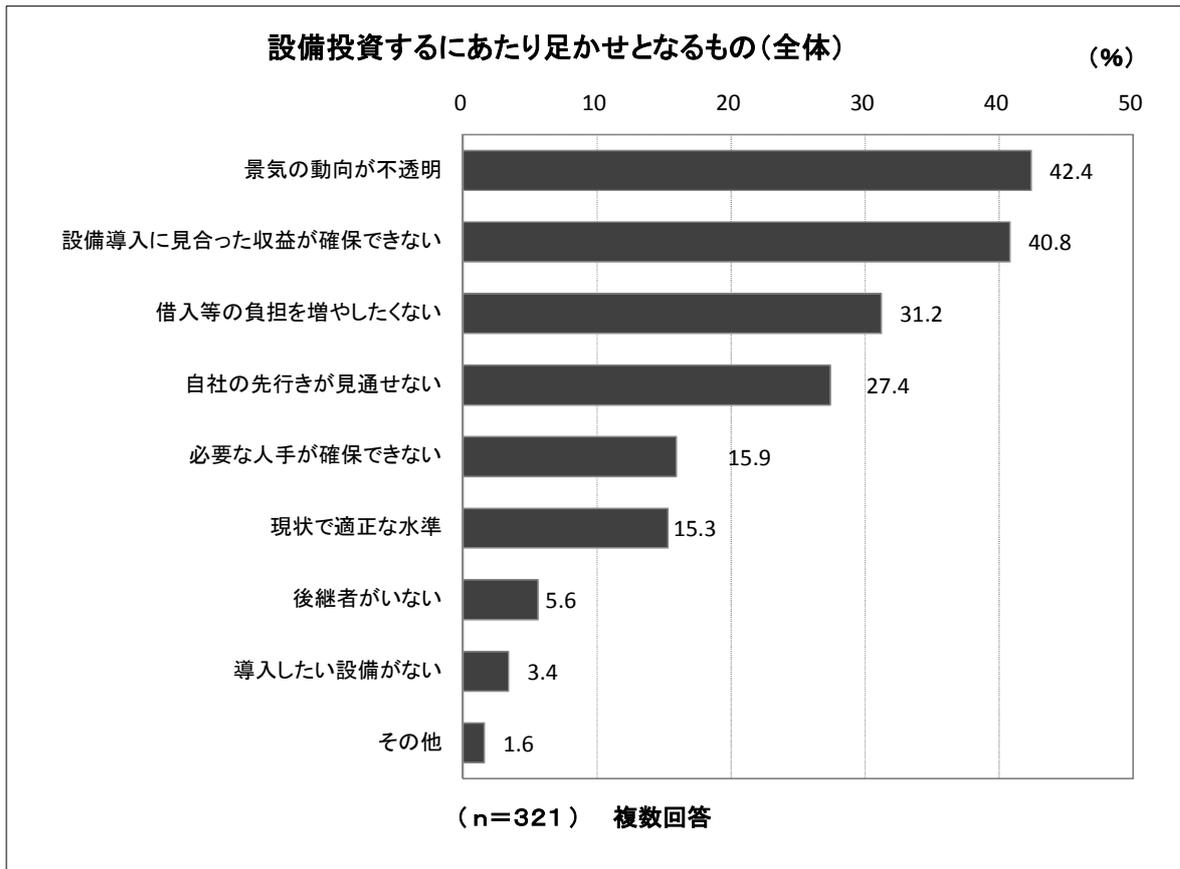
設備投資を考えるにあたり中心となるもの（上位5位まで、複数回答、下段は不明分を含めた割合（%））

順位 業種	1位	2位	3位	4位	5位
製造業 (n=111)	生産能力の向上	設備の入れ替え	既存設備の修理	省力化・合理化	新技術・新製品・新サービスの提供
	55.9	51.4	44.1	34.2	22.5
卸売業 (n=40)	既存設備の修理	設備の入れ替え	省力化・合理化	生産能力の向上	事業所の移転・増設
	65.0	42.5	22.5	15.0	15.0
小売業 (n=52)	既存設備の修理	設備の入れ替え	生産能力の向上	省力化・合理化	人手不足の解消
	48.1	48.1	19.2	17.3	17.3
サービス業 (n=59)	設備の入れ替え	既存設備の修理	省力化・合理化	新技術・新製品・新サービスの提供	生産能力の向上
	62.7	57.6	27.1	23.7	20.3
建設業 (n=72)	設備の入れ替え	既存設備の修理	省力化・合理化	生産能力の向上	人手不足の解消
	56.9	54.2	29.2	27.8	23.6

※複数回答のため、割合の合計は100%にならない。

(2) 設備投資するにあたり足かせになると考えられるもの

- ・設備投資するにあたり足かせとなるものについて複数回答で尋ねたところ、全体では、「景気の動向が不透明」の回答割合が42.4%と最も高かった。次いで、「設備導入に見合った収益が確保できない」(40.8%)、「借入金等の負担を増やしたくない」(31.2%)、「自社の先行きが見通せない」(27.4%)と続いた。
- ・景気の先行きに対する不透明感から、投資に対して慎重な姿勢が感じられる。



- ・業種別では、「景気の動向が不透明」との回答は、建設業（57.4%）と製造業（51.9%）で最も高く、5割を超えた。また、「設備導入に見合った収益が確保できない」との回答は、サービス業（49.1%）と小売業（43.1%）、卸売業（35.9%）で高かった。

設備投資するにあたり足かせとなるもの（上位5位まで、複数回答、下段は不明分を含めた割合（%））

業種	順位	1位	2位	3位	4位	5位
製造業 (n=108)		景気の動向が不透明	設備導入に見合った収益が確保できない	自社の先行きが見通せない	借入等の負担を増やしたくない	必要な人手が確保できない
		51.9	39.8	28.7	28.7	16.7
卸売業 (n=39)		設備導入に見合った収益が確保できない	現状で適正な水準	景気の動向が不透明	借入等の負担を増やしたくない	自社の先行きが見通せない
		35.9	33.3	23.1	23.1	20.5
小売業 (n=51)		設備導入に見合った収益が確保できない	景気の動向が不透明	自社の先行きが見通せない	借入等の負担を増やしたくない	現状で適正な水準
		43.1	27.5	25.5	21.6	13.7
サービス業 (n=55)		設備導入に見合った収益が確保できない	借入等の負担を増やしたくない	景気の動向が不透明	自社の先行きが見通せない	必要な人手が確保できない
		49.1	43.6	32.7	20.0	16.4
建設業 (n=68)		景気の動向が不透明	自社の先行きが見通せない	設備導入に見合った収益が確保できない	借入等の負担を増やしたくない	必要な人手が確保できない
		57.4	36.8	36.8	36.8	22.1

※複数回答のため、割合の合計は100%にならない。

5. おすすめの本に関する調査

NO.	対象者	書名	著者	出版社
1	全て	君たちはどう生きるか	吉野源三郎	マガジンハウス
2	全社員	「言志四録」を読む	井原隆一	プレジデント社
3	全般	得手に帆あげて	本田宗一郎	楠三笠書房
4	経営者、社員	修身教授録	森信三	致知出版社
5	経営者、社員	森信三 100の金言	森信三	致知出版社
6	経営者、社員	生きよう今日も喜んで	平澤興	致知出版社
7	若手経営者	経営者の条件	P. ドラッカー	ダイヤモンド社
8	若手経営者	成功の実現	中村天風	日本経営合理化協会出版
9	若手経営者	心が強くなる言葉	中村天風	(財)天風会
10	若手経営者	物の見方 考え方	松下幸之助	実業之日本社
11	若手経営者	孫子の兵法	守屋洋	産業能率大学
12	若手経営者	峠(上・中・下)	司馬遼太郎	新潮社
13	若手経営者	小倉昌男経営学	小倉昌男	日経BP社
14	若手経営者	社長業	牟田学	産業能率大学出版
15	若手経営者	不格好経営 チームDeNAの挑戦	南場智子	日本経済新聞出版社
16	若手経営者、社員など	坂の上の雲	司馬遼太郎	文藝春秋
17	若手経営者・若手社員	未来の年表	河合雅司	講談社
18	若手社員	伝える力	池上彰	PHPビジネス新書
19	若手社員	ゼロ	堀江貴文	ダイヤモンド社
20	中堅社員	決算書がおもしろいほどわかる本	石島洋一	PHP文庫
21	社員	生き方	稲盛和夫	サンマーク出版
22	社員	マキャベリ兵法	大橋武夫	PHP出版
23	社員	「戦争論」上・下	クラウゼヴィッツ	岩波文庫
24	社員	21世紀の資本	トマ・ピケティ	みすず書房
25	-	小説 上杉鷹山	童門冬二	集英社文庫
26	-	すぐ動くのはやめなさい	佐々木常夫	青春出版社

27	-	必ず食える1%の人になる方法	藤原和博	東洋経済新報社
28	-	革命のファンファーレ	西野亮廣	幻冬舎
29	-	モチベーション革命	尾原和啓	News Picks Book
30	-	生き方	稲盛和夫	サンマーク出版
31	-	武士の娘	杉本鉞子	榊原書房
32	-	赤毛のアン	ルーシー・モード・モンゴメリ	榊原書房
33	-	武士道	新渡戸稲造	-
34	-	蜘蛛	遠藤周作	-